



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

◆特集◆ 「平成 28 年度 全国学力・学習状況調査結果 分析報告書」を公表しました！

今年度の全国学力・学習状況調査結果は、小中学校合わせた 8 教科中 3 教科で全国の平均正答率以上となり、また無解答率についても、8 教科中 6 教科で全国の平均無解答率との差がこれまでになく改善されるなど、子どもたちや教職員に芽生えてきた「やればできる」という思いが形となった結果になりました。

「分析報告書」には「三重県全体概況」をはじめ、県全体の結果分析等も記述しています。県全体の結果と自校の結果とを比較したり、分析を照らし合わせたりすることで、改めて自校の課題を洗い出すことができます。

今一度、自校の取組を振り返るとともに、新たに把握した課題の克服に向けて学校全体で更なる取組を推進していきましょう！



【第 4 章 児童生徒質問紙調査の分析】より (P62 から抜粋)

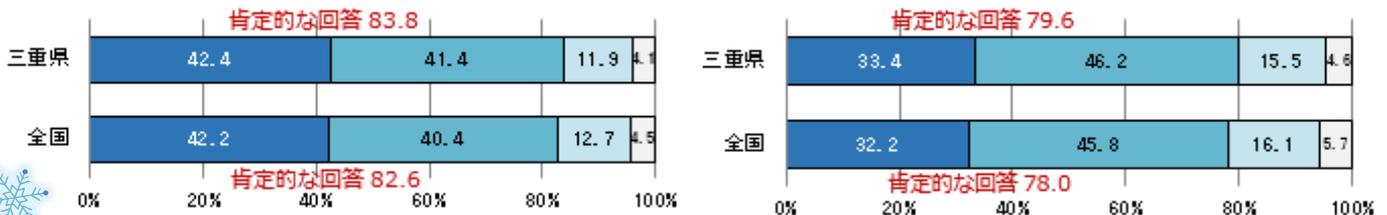
自尊感情・自己肯定感

学校の取組、適切な評価が児童生徒の自己肯定感を高め、達成感や「やる気」を育てています！

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は**全国平均を上回り**、学校の積極的な姿勢が、子どもに伝わっていることが伺えます。

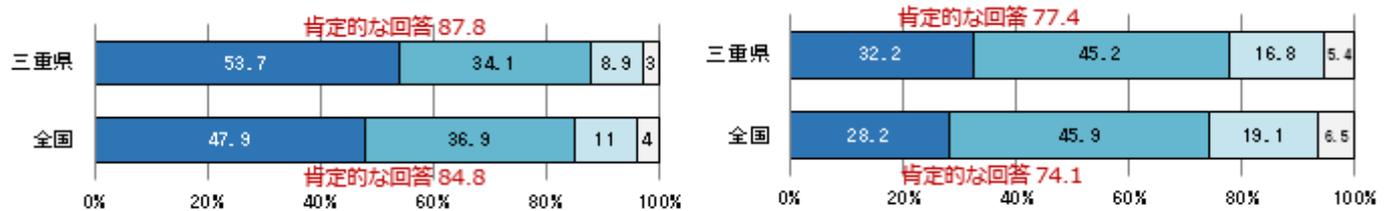
【児童生徒】(32) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか (新規項目)

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



【児童生徒】(33) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか (新規項目)

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



先生と子どもたちとの信頼関係が、さらに構築されてきたよ！

「学-Viva セット第 6 弾」を各学校に配付しました。第 6 弾は、H28 全国学調結果分析において課題が見られた「漢字の読み書き」に関するワークシートを充実しました。日々の補充学習や冬休みの課題等に、ぜひ活用してください！！

～ 全ては「子どもたちの笑顔」のために！～



平成28年度 第2回授業改善研修会を実施しました

中学校教学

【講師：文部科学省 教科調査官・教育課程調査官 水谷 尚人】

主体的・対話的で深い学びの実現 （「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- ・自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・
表現力等の育成

主体的な学び
対話的な学び
深い学び



【対話的な学び】

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決していく姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
- ・あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで、新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- ・子ども同士の対話に加え、子どもと教員、子どもと地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る

【深い学び】

各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

【例】

- ・事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- ・感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

★ 授業づくりで意識したいこと ★

- ◆ 児童生徒が将来必要とする力を見据えましょう
- ◆ 習ったことを活用する機会を設定し、その際、言語活動の充実をしましょう
- ◆ 学習している内容の価値を実感できるようにしましょう
- ◆ 考えるための材料を見極めて提供しましょう
- ◆ 「子どもたちにどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉えましょう
- ◆ 最終的に自律できるように考えましょう
 - ・知識を得ることができるように
 - ・学んだことを活用できるように
 - ・新しいことに踏み出せるように
- ◆ 全ての教職員が「カリキュラム・マネジメント」の必要性を理解し、日々の授業等についても、教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組みましょう

★ 習熟度別授業～生徒への対応～★

- ◆ 親近感がわき、人前で気軽に素直な発言ができるような雰囲気づくりをする
 - よさを認める
 - 間違うことをよい機会と捉える
- ◆ 多くの生徒が表現できる機会を増やす
- ◆ 机間指導で、できるだけ多くの生徒の学習状況を把握する
- ◆ 間違いの原因を明らかにする
- ◆ 授業中のノートの記述をしっかりと見て把握する
- ◆ 学習記録表などを使った授業評価
- ◆ より少人数にあった課題の工夫
 - 習熟にあわせたもの 評価を助けるもの
- ◆ 授業形態の工夫
 - 話し合いができる工夫

★ 受講者アンケートより ★

- 生徒の考えを共有させることの重要性を改めて知り、その共有の中で生徒の考えを説明させることを取り入れていくべきだと感じました。
- 教材研究、授業改善に終わりはないことを勉強し、目の前の生徒の状況に合った授業づくりをしていきたいと思います。





～子どもたちの様子を把握し、子どもたちに寄り添った指導に生かす～

南勢小学校では、「豊かな心と確かな学力を身につけ、たくましく生きる子どもたちの育成」をめざして、日々子どもたちの様子を学校全体で把握・共有しながら、習熟度別少人数指導など、個に応じた教育を全力で進めています。

また、ふるさと教育や防災教育において地域を活用した体験学習などを取り入れ、保護者や地域と連携を深めながら、子どもたちの生きる力の育成にも取り組んでいます。



●児童の実態把握●

- 全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの自校採点 & 結果分析
→ 全教職員で子どもの「**強み** & **弱み**」を共有

強み

● 実体験から学ぶと定着率が **UP!**

弱み

- 自尊感情が低い
- 子どもたち同士の距離感がある

★ 校内研修・職員会議等で情報共有・検討 + 校長チェック → 授業にフィードバック

- 校長の一日2回の授業参観（教室の前から参観 & 子どものがんばりを**たくさん褒める**）
- 子どもたちの生き生きとした主体的な学びに向けて、教職員が**意見を出し合って検討**
- 話し合われた改善策を課題の提示などの授業展開にフィードバック

Point

「全教職員で情報共有するためのコツ」

- 話し合いを「見える化」
→ 「ホワイトボードミーティング」
「ワークショップ」

Point

「子どもの褒め方のコツ」

- 「評価し、視点を与える」
→ 「シッカリした姿勢で
書けているからいいね」

リアル
タイムで
認めて指導!

どんな
些細な成長も
見逃さず
ほめる

●少人数指導（習熟度別指導）の取組 & 成果（5年生算数より）●

最後まで諦めずに取り組んでいたか？

基本「じっくりコース」

体験や操作活動を多く取り入れる

- 復習の時間を長く設定
- スモールステップで
- ICTを活用（注目度 **UP**）

具体的な見通しを持たせることに重点を置いた指導

成果

算数を苦手とする子どもが、操作活動を増やすことで、生き生きと笑顔で学ぶようになった。

発展

「チャレンジコース1」

自分で考える力をつけていく

- 復習の時間は短く設定
- 課題に取り組む時間を長く設定
- ICTを活用（短時間で課題把握）

課題に対する**自立解決**や、集団での思考や表現に重点を置いた指導

成果

発表に自信のなかった子どもが、考えを深め合い、筋道を立てて生き生きと発表するようになった。

発展

「チャレンジコース2」

応用的な問題を自分達で解き、解説しながら進めていく

よりよい解き方にたどり着いていたか？

成果

算数を得意とする子どもが、よりよい課題解決策を求め、より主体的に生き生きと活動するようになった。

「学校生活アンケート（児童対象）」結果より

- 学校が楽しい
- 元気よくあいさつができる
- クラスの中で自分の思ったことが言える
- 自分のいいところに気がついている

10%以上UP!!

●●●●●●●●●●南伊勢町立南勢小学校長からのコメント●●●●●●●●●●

本校では、習熟度別少人数指導の取組を中心に様々な取組を進め、子どもたちの学ぶ力を伸ばすことをめざしています。その為に、まず全国学調等の客観的な資料を分析し、本校の学習指導における強み・弱みを明らかにしました。そして、教師が子どもたちの日々の様子を丁寧に見取り、どんな些細な成長も見逃さず「評価し視点を与えて」褒め、子どもたちのやる気や自尊感情を高めるよう努めています。また、教師が「問いかけ、寄り添い、確認」しながら、子どもたち自身が失敗や成功の経験を通して判断や決定をし、主体的に学ぶ土台づくりにも取り組んでいます。

学ぶ喜びや自己有用感をもつことができる児童生徒の育成を目指して

魅力ある学校づくり調査研究事業

平成26・27年度の2年間、名張市立北中学校区（北中学校・薦原小・美旗小・桔梗が丘南小・桔梗が丘東小・すずらん台小学校）において、子どもたち一人ひとりが「学校が楽しい」、「勉強が面白い」、「みんなと協力することが楽しい」と感じることができる「魅力ある学校づくり」に取り組みました。本年度は、名張市全体（5中学校、14小学校）で取り組んでいます。

★ 取組1 「わかる授業づくりと学習意欲の向上」 ★

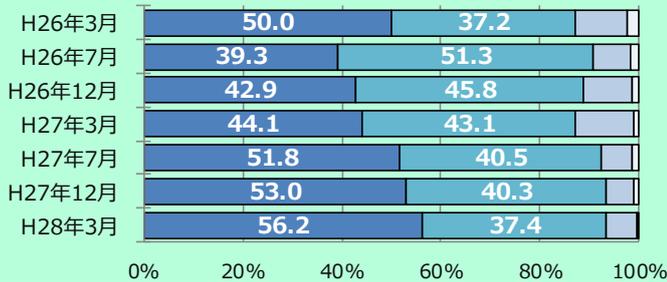
～ 主体的に取り組む意欲や態度を育てる ～

- ・ 学ぶ喜び、わかる楽しさを味わうために「めあて」と「振り返り」を入れた授業の構造化
- ・ ペア学習やグループ活動の活用による授業改善
- ・ 「主体的に学ぶ姿」の明確化

● 意識調査結果 ●

授業に主体的に取り組んでいる（北中学校集計結果）

- 当てはまる どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない



ペア学習やグループ活動など、学び合う場面を意図的に授業に取り入れ、協力して課題に取り組むことで、自ら学ぶ意欲を育てています。また、授業の始めには授業の「めあて」を示し、見通しを持って授業に臨めるようにしています。授業の終わりには「振り返り」の時間を確保し、自分の言葉で授業のまとめをしています。

★ 取組2 「豊かな人間関係と居場所づくり」 ★

～ 自分や友だちを大切に育てる子どもを育てる ～

- ・ 行事や日常生活での肯定的な「振り返り」による、互いに認め合う場面の設定
- ・ 児童会や生徒会を中心とした自治的活動の推進

* 「クラス会議」 *

悩んでいることや困っていることを、クラス単位で解決していこうとする場を設定しました。



* 体育祭での生徒会よりのメッセージ *

今年は「生徒会の5つの目標」と共に、「一日一歩～継続は力なり～」というスローガンを掲げています。これには「一人ひとりが日々少しずつ前進して、成長していけるように」という思いがこもっています。

また今年の生徒会では、各イベントを生徒主体で取り組んでいます。自分たちで考えて自主的に行動することが自立への第一歩だと考えたからです。そんな自立した学校にしていきたいです。

これからもよろしくお祈りします。
北中学校生徒会

● 意識調査結果 ●

みんなで何かをするのは楽しい（北中学校集計結果）

- 当てはまる どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない



★ 取組3 「生き方を学ぶ教育活動の充実」 ★

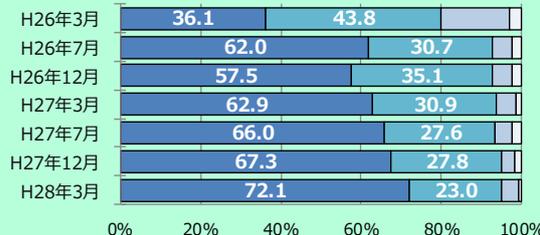
～ 夢や希望をもって生活する力を育てる ～

- ・ 地域の方とふれあう場面の設定

● 意識調査結果 ●

学校が楽しい（北中学校集計結果）

- 当てはまる どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない



- ・ 行事を通じた異年齢集団との交流



「中一ギャップ」等の緩和を目的に、美旗小学校6年生が北中学校に授業参観に訪れました。中学3年生が、最上級生としての責任や、中学校生活に向けて小学校で身に付けてほしい力について伝えました。

子どもたちが、地域との合同運動会を盛り上げるための方法やアイデアを、自治会長さんをはじめ地域の方に提案しました。